

Radicalization and Terrorism

Context, Trajectories, Implications and the Role of Education

including the Possibility of COIL Type Education

過激化とテロリズム

その背景、変遷、今後の展望と教育の役割および COIL 型教育の可能性

国家権力が、過激化した市民にテロリストというレッテルを貼り力で抑圧することは、暴力の連鎖につながるだけでなく政治不信を招くことが、世界のいたるところで散見されています。

教育が過激化を抑える役割を果たすのではないかという見方もありましたが、高等教育を受けた若者が過激化に走るケースも見られています。

そもそも、過激化は根絶されるべきものなのでしょうか？

また、高等教育は過激化に対して役割を果たせるのでしょうか。

過激化した若者を脱過激化させる取り組みや、高等教育を通して過激化を抑制する取り組みをしている専門家を、今まさに過激化の問題と対峙しているインドおよびパキスタンからお招きし、この問題を討議します。

そして、脱過激化のためにも視点の多角化等を目指し COIL 型教育(*)を実践している東京外国語大学教員とともに、COIL 型教育を含む高等教育の可能性についても検討します。

※COIL 型教育: Collaborative Online International Learning の略で、「オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法」を意味します。インターネットツールや革新的なオンライン教授法を使用し、地理的に離れた異なる言語・文化的背景を持つ大学間の学生と教員の交流を実現します。

1. 開会挨拶

伊勢崎賢治(東京外国語大学教授)「平和構築における高等教育と COIL 型教育の可能性」

2. 講演

「過激化の背景、変遷、今後の展望について」

Yasir Sameer(ジャーナリスト、Former Assistant Professor, Islamic University of Science and Technology)

Mubashar Hasan(Assistant Professor, North South University, Bangladesh / Post Doctoral Research Fellow, University of Oslo, Norway)

「教育における過激化に対する取り組み」

Fatima Sajjad, Assistant Professor, University of Management and Technology, Pakistan

3. 討論(モデレータ: 福田彩)

4. 質疑応答

5. 閉会挨拶

岩崎稔(東京外国語大学教授／世界展開力強化事業 COIL 型事業推進責任者)

●日時： 2020 年 1 月 14 日(火)16:10-18:00(15:50 受付開始)

●使用言語： 英語(通訳なし)

●会場： 東京外国語大学 研究講義棟 2F 205 教室

<http://www.tufs.ac.jp/info/campusmap.html>

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

(西武多摩川線多磨駅下車徒歩約 7 分)

●主催： 東京外国語大学世界展開力強化事業 COIL 型

※本シンポジウムは文部科学省補助金事業の一環として行われます。

●申込み： お名前とご所属を明記のうえ、以下どちらかの URL よりお申し込みください。

<https://forms.gle/ihk597jQp3pxE9Tt6>

または https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfPYcjPnH5UK2H2ngVHTFRjnCtTaP-EOeQnn9OG08viwB3rWw/viewform?usp=sf_link

●参加費： 無料

●当日は、オンライン接続による海外の大学からの聴講も予定しています。

<お問い合わせ先>

東京外国語大学 世界展開力強化事業 コーディネーター

福田 彩(特任助教)

Tel: 042-330-5874 Email: tp-coil@tufs.ac.jp